

1 研究主題

小・中学校が連携して取り組む外国語活動・英語教育の充実
～コミュニケーション能力・意欲の育成を目指して～

2 研究の概要

柏崎市刈羽郡学校教育研究会が主体となり、柏崎市教育センター、柏崎市・刈羽村教育委員会とタイアップしながら研究に取り組む。

- (1) 指導力向上のための研修を推進する。教師のための英会話教室、授業研究会等。
- (2) 中学校区単位で外国語活動・英語教育に関する小中連携を一層推進する。

3 研究の実際

(1) 教師のための英会話教室

夏季休業中に柏崎市教育センターで英会話教室が2日間開催され、小中教員が大勢参加した。教員のニーズに合わせたコースが用意され、柏崎刈羽に配属されているALTと市の指導主事の指導の下、楽しく充実した研修会となった。



この研修では、自己紹介一つにしても互いを理解し合うような方法を工夫したり、ゲームや会話を通してコミュニケーションをとる方法を体験したりした。参加者からは「英語は専門ではないが、心が解放された気持ちになった。」「楽しくて、時間ももっとほしかった。そして、もっとbrush up したい。」等、コミュニケーション意欲の高まりが見られた。

(2) 小中連携した研修

① 授業研究会（会場：柏崎市立新道小学校）

開始前の静けさとは一変、授業が始まると積極的にLets go to～！で仲間を誘う姿があった。「Hi Friends の使い方等、大変参考になった」「最も感心したところは子どもたちのつながりで、聴く側の温かさがあってこそ外国語でのコミュニケーションも豊かになると思った」など、授業内容だけでなく、指導者と子ども、子ども同士の関係性から学ぶものが多かった。授業研究会は柏崎市立松浜中学校でも行われ、小学校教員も多数参加した。

② 中学校区の実践（写真は第三中学校区柏崎市立鯨波小学校）

小中一貫教育・柏崎方式と関連づけた、各中学校区の実践が進んでいる。例えば、第三中学校区では、各小中学校1回ずつの授業公開と連携会議を通して、小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続を図っている。「アルファベットに親しませること」「誰とでも恥ずかしがらずにコミュニケーションを取る態度」、そして「3つのsmile、eye contact、clear voice」を全学年の授業で大切にしている。



4 成果と課題

各種研修会や授業研究会を通して、小中学校間のハードルが低くなったこと、そして教員自身がコミュニケーションを楽しんだり、スキルを身に付けたりしたことなどが成果として表れている。小中教員の意識改革が更に進んだ1年間であった。

しかし、中学校英語との円滑な接続を考えたとき、「書くこと」をどのようにとらえればよいのか課題が残る。